

白藍塾オリジナル

2019入試小論文分析&解答のヒント

2019年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・経済学部

説明問題（200字）＋小論文問題（400字）の二本立てという形式は、例年通り。だが、課題文が「生物多様性」をテーマにしている点は、やや異色だろう。経済学部の小論文なのに、経済学的な発想を「数量主義」として真正面から批判している点もユニークだが、その点は課題内容と直接関わっているわけではないので、あまり気にする必要はない。

課題文そのものは、わかりやすい。質的な多様性を重視する生物多様性の考え方が、現代人の数量主義的な考え方になじまないために軽視されがちであることが説明されている。

設問Aでは、「数量主義が生物多様性と相性が悪い」理由の説明が求められている。そのことについて直接述べているのは課題文の最後の三段落だが、そもそも数量主義と生物多様性の考え方の違いから説明する必要があるため、ほぼ全文要約に近いと考えてよい。したがって、「数量主義は質の違いを無視して量の違いだけに注目するが、生物多様性は質の違いそのものに価値がある」と、「生物多様性に関する数値はあいまいで不確かなので、数字を客観的な事実として信仰する数量主義には重視されにくい」という2点をきちんと説明すれば、それでよいはずだ。

設問Bは、設問の条件が複雑でややこしい。「多様性は豊かさを表す」という筆者の主張を支持する「現実の人間社会」の事例を一つ挙げた上で、「①その事例がどのように筆者の主張を支持しているのか」「②その事例中の多様性を支える仕組みとして何か必要か」を述べるのが求められる。要するに、多様性の豊かさを示していると思われる社会的な事例を挙げ、なぜそう言えるのかという根拠と、それを成り立たせている仕組みとを論じればよいわけだ。もちろん、ここで生物多様性の話などを持ち出しても、設問の狙いとはかみ合わない。

どんな事例を選ぶべきかはなかなか難しい。多民族社会における文化・民族・言語などの多様性といった、やや抽象的な事例を挙げることもできるが、学部の特性や「現実の人間社会」とわざわざ強調されていることからすると、もっと身近で社会的な例を挙げるほうがよいだろう。例えば、近年働き方が多様化している状況や、消費のあり方の多様化、家庭や結婚のあり方の多様化、情報化やグローバル化による生活スタイルの多様化など、様々な例が考えられる。この方向であれば、適切な事例を思いつきさえすれば、そうした多様性を支える仕組みについても、具体的に説明できるはずだ。いずれにせよ、社会問題に対する関心の高い受験生ほど、有利な問題と言える。

書き方は、字数が少ないので、最初に選んだ事例を示した上で、①と②をそれぞれ一段落ずつ説明する形でよいだろう。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://www.hakuranjuku.co.jp>